水門・陸閘等の効果的な管理運用検討委員会（第１回）議事概要

日　時：平成２５年１月１１日（金）１３：００～１５：００
場　所：中央合同庁舎３号館　４階特別会議室
出席者：目黒委員長、磯部、重川、門脇、市川、齋藤、黒川、本田、田中各委員、松尾氏（ゲストスピーカー）、山口課長（オブザーバー）他

１．主な議事

〇事務局より検討会の進め方、水門・陸閘等の管理運用に係る現状等を説明し、各海岸管理者等より具体的な取組事例を紹介した。
〇事務局よりガイドライン改訂等に係る論点を説明し、意見交換を行った。

２．主な意見等

〇ガイドラインの改訂は重要だが、海岸管理者に知られていなかったり活用されていなかったということも問題。東日本大震災で水門・陸閘等の閉鎖に関係して被災した方の被災原因を分析し、分析結果に基づき改訂が必要。
〇津波対策としてハードとソフトの組み合わせが重要であり、ハード面については、利便性を確保しながら安全性も確保する対策が重要。また、水門・陸閘等の自動化をしなければならない施設が多いだろうが、費用面に課題がある。ハードの技術開発を課題として考えていく必要がある。
〇自動化された水門は、バッテリーの交換費用がかなりかかる。電源のバックアップ対策のための技術開発が期待される。
〇沖合潮位のリアルタイムモニタリングのデータを活用し、避難情報として活用することについて検討すべき。
〇水門・陸閘等を廃止しようとするのであれば、どの施設から廃止していくかの選定基準や代替機能の確保に係る検討事例があると分かりやすい。また、自動化・遠隔操作化を進める際、どの施設から優先的に行うかの基準のようなものが用意できるとよい。
〇海岸管理者以外が最終操作者となっている割合が高いが、民間の方に操作をお願いすることがそもそも良いのかについて検討すべき。
〇消防団員は正義感と使命感が強い。逃げることが卑怯な行為ではないということを明確にすべき。
〇現場の対応力・判断力は重要だが、水門・陸閘等を閉めるか避難するかの最終判断を現場に全て任せるのではなく、避難しなければならないというルールを用意すべき。
〇水門・陸閘門等の自動化・遠隔操作化に当たっては費用の問題がある。例えば、現場操作者の方が亡くなることの影響を評価すると、事前にきちんと対策しておく方が合理的でコストもかからないという説明ができるのではないか。
〇東日本大震災は、昼間に発生したので、時間的な条件は良かった方だと言える。時間や季節の条件が変わった場合にどうかという点に留意すべき。
〇水門・陸閘等の現場での操作者の立場で、操作の不便さを感じることがある。管理システムの構築に現場操作者の視点も組み込めないか。

（以上）